

〈子どもたちへの支援を考える〉

今回は、学級の中でよく見られる「子どもの姿」をきっかけに、「その姿の背景・要因」に目を向け、支援を検討する過程を考えてみたいと思います。

例) 授業中、思いついたタイミングで発言をし、注意をされると泣き出してしまうAさん

気持ちを落ち着けるために静かな部屋で過ごすようにしてみようかな。

静かな部屋でクールダウンしたから泣きやめたけど、次の授業でまた泣いてしまったよ…

「泣き出した」状況には、静かな部屋で過ごすことが有効かもしれないけど、「思いついたタイミングで発言をする」状況にはアプローチしていなかったな。

Point 「思いついたタイミングで発言をする」という姿の背景・要因となる部分に目を向け、支援を考えてみましょう。

背景・要因に目を向ける

- ・授業中における発言のルールがあいまいでわかりにくかったかもしれない
- ・Aさんは、伝えたい思いが強くて、意見や考えをすぐに話したくなるのかもしれない
- ・学習活動に意欲的に参加し、伝えたい思いをたくさんもっているAさんは素敵だね

「気付き」

- ・ルールを「当たり前のこと」「暗黙の了解」として十分に説明していなかったかもしれない
- ・注意されることを「発言できなくなる」と捉えているのかもしれない
- ・意見や考えを発表する方法は「挙手による発言」だけでなくてもいいかもしれない などなど…

表面的に見えない部分に目を向け、「気付く」ことで子どもの思いを考えたり、いいところを見つけたりする、新たな視点をもつことができます。

《考えられる支援》

- 「発言のルールや教師の言葉かけへのAさんの捉えを確認する」
- 「発言のルールを明らかにして、学級全体に分かりやすく伝える」
- 「Aさんの伝えたい気持ちを受け止め、より良い方法を一緒に考える」
- 「ICTの活用による発言の可能性の拡大」

などがありそうです（あくまで一例です）。

Aさんは授業に落ち着いて参加できて嬉しそう！
学級全体として発言する子が増えたな…

手を挙げたら先生に「発言したい」気持ちが伝わることや、発言のルールがわかったから静かに手を挙げるできるようになってきたよ。

教師の働きかけが変わると子どもの姿も変わります！

- ・行動の背景・要因に目を向けて支援を考えること
- ・支援について可能な限り本人と話をすること
- ・支援はトライ&エラーであると捉えること

まずは、やってみましょう！！

Point